

職員オススメ本 3月

「おとな六法」 岡野 武志・アトム法律事務所／著
クロスメディア・パブリッシング



著者はYoutuberとして日本一のチャンネル登録者数を持つ『岡野武志・アトム法律事務所』です。

私たちが日常生活で何気なくやっていることが、実は法律に触れている可能性があります。本書ではそんな法律を身近に感じてもらうため、身近な疑問やありえない質問に答えています。例えば、「ゾンビを殺すのは犯罪になりますか?」、「ウルトラマンが怪獣と戦う中で街を壊すのは犯罪ですか?」など一見バカバカしい質問にも回答しています。

答えを知りたい方は是非とも本書を手にとってお読みください。

「おとな」も「こども」も面白くて役に立つ、一家に1冊備えておきたい六法です。



「うまたん」 東川 篤哉／著 PHP研究所

牧場の娘の女子高生・牧陽子は、実家の近所で殺人事件に遭遇。その容疑者とされたのは近所の乗馬クラブの乗用馬・ロック。本当にロックが殺人を?と腑に落ちない陽子の耳に、コテコテの関西弁が聞こえてきて…。

殺人、窃盗、金銭トラブル…小さな田舎町で起こる不可解な事件。それを解決するのは牧場の娘と元競走馬!?

すべての事件の裏に「馬」があり!?!な馬だらけのユーモア連作短編ミステリーです。



「おあとがよろしいようで」 喜多川 泰／著 幻冬舎

門田暖平は、群馬から東京の大学に進学したが、特にやりたいこともなく、人付き合いも苦手なことから大学四年間はバイトに明け暮れようと考えていた。しかし、落語研究会の部長・忽那に出会い流されるように入部することになる。自分に自信を持てなかった暖平だったが、優しい部員たちと落語の魅力によって思いがけない方向に人生が変わっていく。

読み終わった後、落語に触れたくなる心温まる物語です。